

# やってみたい気持ちを考える（園長つぶやき）



先日、子ども達が園庭で遊んでいる時のこと、年長の子ども達が大型遊具の滑り台の横から上に登っている姿がありました。思わず「そんなところから登れるんだね」と声をかけてしまいましたが、通常の上に登る場所からではなかったことを考えて、子ども達に「それならこっ

ちでやってみない??」と桜の木に誘ってみました。子ども達はすぐに「やってみる!」と木の下に集まり、順番を決め挑戦し始めました。



登り始めてすぐ、挑戦する全員が登れるようになり、みんな満足気な表情。こちらに誘ってよかったと感じたところでした。

この木登りの中では、子ども達たちでルールを決めることが出来ていたようです。1つ目は「順番を守る」、2つ目は「挑戦する時は上に登るまでに5回挑戦できる（5回挑戦して上まで登れない場合は交替する）、3つ目は「誰かが登る時は木の下に近づかない」。細かく言うと他にもあったかもしれませんが、大きくはこのルールのもとでケンカもなく何度も挑戦していました。途中、3歳児クラスの子どもがやってみたいと話しに来て「〇〇君が挑戦したいみたいけど」と伝えると、「いいよ!」と自分たちの順番を譲り、その子の挑戦を「ガンバレー!」と応援をしながら見守っていました。また、昇り降りする時に、「どの枝をつかむか」、「足をどこに掛けるか」等、色々なことを考えなければできませんが、よく考えながらやっていたようです。

大型遊具を滑り台の横から昇ることは、遊具の遊び方から考えると残念ながら「ルール違反」になり、やってはいけないことですが、子ども達の姿を見て、「やってみたい」と思う気持ちをどう汲み取るか、とても大事だと思える場面でした。(R2. 4. 22)